

この春から  
中学生!

「何とかしたい!」から始まった、こども学芸員の歩み  
～僕らが見つけた、宮川町の宝物～

市教育委員会学芸員三好清超さん(左)・古川中学校藤戸貴生さん(右)

「この場所を、なんとかしたい」。そんな真っ直ぐな想いから始まった、宮川小学校の子どもたちによる挑戦。かつては「年間30日間しか開かない博物館」とも呼ばれ、静かに時を刻んでいた飛騨みやがわ考古民俗館に、今、子どもたちや全国から応援して下さる方の手によって新しい風が吹き込まれ、確かな変化が起き始めています。

開館30周年、山間部の記憶を刻む拠点

皆さんは「飛騨みやがわ考古民俗館」に行ったことがありますか？

宮川町塩屋にある「飛騨みやがわ考古民俗館」は、1995年に完成し、2025年で開館30周年を迎えました。実はここは、全国のみならず、近年はモンゴル、ロシア、ニュージーランド、台湾、韓国の研究者らが訪れる「お宝」が眠る場所です。

圧倒的な収蔵数にみる、先人たちの歩み

収蔵資料は、国重要有形民俗文化財「宮川および周辺地域の積雪期用具」2,800点を含む民俗資料が約1万6,000点。そして、旧石器時代から縄文時代までの考古資料が約4万点と、圧倒的な規模です。

特に、縄文時代の祈りのための石製品「石棒」1,074本が出土した塩屋金清神社遺跡に隣接する立地は、その収蔵量とともに全国に誇るべきものです。かつてこの地が「祈りの道具」の一大製作拠点であったことを物語る、タイムカプセルのような施設です。山間部で生きてきた人々の知恵と歴史が、この場所に凝縮されています。



かつての野良着



宮川町で実際に使われていた山仕事用具



雪国ならではのかんじき

# 「伝える人」がいなければ、この歴史は消えてしまう

## 「伝えたい」という熱意で、子どもたちがガイド

この場所の価値を自分たちの手で守ろうと、宮川小学校の子どもたちが挑戦したのが、来館者への「展示ガイド」でした。令和6年度は3回、開館日にあわせて実施。自分たちで石棒や歴史を深く調べたからこそ、解説には力がこもります。回を重ねるごとに「どうすれば面白さが伝わるか」を工夫し、自らの言葉で語る姿は、訪れる人の心を動かしました。

「お客さんの『へえ〜!』という反応が嬉しくて、駐車場がいっぱいになるほど多くの人を訪れてくれた景色を見たときは、本当にやってよかったと思いました」。

昨年5月に開催された「飛騨みやがわ考古民俗館開館30周年記念シンポジウム」では、これらの活動を町民や全国から訪れた研究者らに発表しました。



プレゼンやクイズなど工夫を凝らしたガイド



開館30周年記念シンポジウムでの発表



遺跡発掘時の様子

## 石棒が教えてくれた、4,000年前の息づかい

「石棒は宮川から富山などいろんな場所で見つかっています。4,000年前から地域を超えた交流があったことがすごい!」。

子どもたちが特に興味を持ったのは、施設のシンボル「石棒」の広がりでした。自分たちのまちのものが遠方で大切にされていた事実は、この地域の重要性を実感する発見となりました。

製作途中の資料にも注目し、「一つひとつ形が違う。どんな思いで作ったのか推測するのが面白い」と、先人の営みに深い敬意・関心を寄せています。

## 「この施設に実際に来て、見てほしい」こども学芸員の思い

「昔の人もここで同じように生きていたんだなと考えると面白い。過去の歴史が今とつながっている。これからも大切にしていきたい」。

活動を通じ、子どもたちの思いにも「確かな変化」が起きていました。活動の歩みの中で、「ここを案内する人がいなくなると、この場所の良さを伝える人もいなくなってしまう。」という切実な思いが生まれていました。

「飛騨みやがわ考古民俗館に実際に来て、この凄さを知ってほしい。知らないことや必ず興味を引くものがある施設。ぜひ探してみてください」。



## 欠片から想像する「ものづくり」のプロセスがイチオシ!

完成した石棒だけでなく、作っている途中のものや破片がたくさんあります。昔の人がどうやって石を削り、失敗し、工夫したのか…。4,000年前のものづくりの現場を、ぜひ間近で観察してみてください。



石棒



土器②

施設では宮川小学校の子どもたちによるガイドが多数動画で観られます!▶





中野山越遺跡出土品以来

# 30年ぶりの快挙! 宮川町で発掘された縄文時代の祈りの道具「石棒」が国重要文化財指定へ!

市教育委員会が令和5年度から3年間実施した調査により、飛騨みやがわ考古民俗館にある石棒群の稀有な価値が再確認されました。特筆すべきは、完成品だけでなく製作過程を物語る資料が極めて豊富な点です。これにより、約4,500年前から3,500年前にかけての製作技術や形態の変遷を体系的にたどることが可能となりました。産出地の特定に加え、大型から小型への変化を裏付ける本資料は、学術的な「基準資料」として極めて高い評価を受けています。この成果が、今回の重要文化財指定の大きな決め手となりました。



## 重要文化財指定は縄文時代の「謎」に迫る第一歩

石棒は縄文時代の代表的な祭祀用具ですが、具体的な使われ方は今も謎に包まれています。今回の指定は、単なる保存に留まらず、製作工程がわかる貴重な資料一式を次世代へ確実に引き継ぐことを意味します。それは、今の科学では解き明かせない歴史の「謎」に、100年後の研究者がいつでも迫れる状態をつくるということ。重要文化財への指定は、謎の核心へ踏み出す、未来へ向けた「第一歩」なのです。



### 学芸員三好清超さんの思い

先輩方が大切にしてきた出土品が国重要文化財に指定され、引き継いだ僕としてもとても嬉しく思っています。

また、飛騨みやがわ考古民俗館の来場者数も年間800人を超えています。研究者の皆さんや石棒クラブ、いつも応援してくれる市内外の皆さん、そしてそれを支えてくださる飛騨市に感謝し、次の世代へしっかりと受け継いでいけるよう、みんなで力を合わせていきたいと思います。

無人開館やデジタルを駆使した活動を応援!



石棒クラブから生まれたメカ石棒くん

## 飛騨みやがわ考古民俗館 開館スケジュール

詳しくは市ホームページをご覧ください

- 4月・5月は終了
- 7月 18、19、20日
- 9月 19、20、21、22、23日
- 10月 10、11、12日
- 11月 1、2、3日

Xで石棒のことをつぶやいています



石棒クラブから生まれた石棒くん

■時間 9:00 ~ 17:00 (入館は16:30まで)

■入館料 無料

■問 文化振興課 ☎0577-73-7496



詳細ページ

## 無人開館でも楽しめます!

管理人不在でも自由に見学いただける「無人開館」を実施しています。無人開館日での来館の際は事前予約が必要。



詳細ページ

## 街なかポケットミュージアム「ポケット石棒展」

■期間 5月31日(日)まで ■時間 10:00 ~ 16:30

■休館日 木曜日

■会場 飛騨古川さくら物産館内 街なかポケットミュージアム

■入館料 無料



詳細ページ